

(添付様式1)

農場管理シート

- ① 現地確認を受ける農業者が記入すること。
- ② □がある項目については、該当する項目の□に■又は✓を記入すること。
- ③ 炭素貯留効果の高い有機農業の取組(加算措置)を実施する場合は、別途、生産記録等を提出すること。
- ④ 取組拡大加算を実施する場合は、「指導を受ける農業者」が本様式において主に指導を行う農業者、主な指導予定内容を記入すること
- ⑤ 必要に応じて行を追加すること。

団体名:

取組拡大加算の実施

氏名:

主に指導を行う農業者の氏名:

主な指導予定内容:

1 農場管理

(1)ほ場(必須)

ほ場名	所在地	面積(a)	作物名	区分 (開始時期)	緩衝帯設置 の有無	水管理実施 の有無 (水稲のみ)	収穫 予定時期

※1 ほ場1筆ごとの状態が把握できる地図を添付すること。

※2 同一ほ場であっても、使用資材等の管理が異なるほ場は個別に記載すること。その場合、所在地はすべて同じ記載とすることができる。

※3 区分には「有機」又は「転換期間中」と記載する。

(2)使用肥料及び土壌改良資材(使用した場合のみ記載)

資材等の名称	製造者名等	使用目的	使用時期	備考
①堆肥	(堆肥の原材料)			
②肥料				
③土壌改良資材				

現地確認
チェックリスト
との対応項目
農場管理シートと
現地確認チェック
リストとの対応を
以下に示す。

チェック項目①
使用肥料及び
土壌改良資材

(3) 使用農薬(使用した場合のみ記載)

農薬名(剤型等、商品名)	製造者名等	使用目的	使用時期	備考

⇒ チェック項目①
使用農薬

(4) 有害動植物の防除(必須)

- 耕種的防除(適地適作の作物や品種の選定、健全種苗の利用、耕起・中耕、被覆植物の利用等)
- 物理的防除(種子の比重選、光線の遮断、誘蛾灯・防蛾灯の利用、防虫用ネット・粘着トラップの利用、人力又は機械的な除草等)
- 生物的防除(拮抗微生物の利用、捕食性及び寄生性天敵の利用等)

⇒ チェック項目②
有害病害虫防除

(5) 使用種苗(必須)

作物名	種・苗の別	入手方法	購入先	種苗の種類	使用農薬名	有機種苗の入手困難な理由	備考

⇒ チェック項目③
使用種苗

(6) 周辺から使用禁止資材が飛来し又は流入しないような措置

① 緩衝帯の設置 (必須)

具体的な措置内容	近隣ほ場との隔離距離 (m)	備考

② 水管理 (水稲取組ほ場のみ記載)

具体的な措置内容	備考

③ 機械・器具 (使用した場合のみ記載)

機械・器具名	有機専用 慣行併用	個人使用 共同使用	保管場所	洗浄方法	備考

(7) 組換えDNA技術の利用 (必須)

組換えDNA技術を利用しない。

(8) 放射線照射 (必須)

放射線照射を行わない。

2 誓約 (必須)

有機農業を継続的に実施します。

※ 同一ほ場における転換期間中の支援は1度(2年又は3年)となる。転換期間は多年生の植物から収穫される農産物にあつては3年間、それ以外の農産物にあつては2年間となる。コーデックスガイドラインにおいて、「有機農産物生産への転換中の区域は、転換済みの区域と同様に、有機農法と慣行農法を交互に行ってはならない(交互に切り替えてはならない)。』と規定されている。

チェック項目④
周辺から
使用禁止資材が
飛来又は流入
しないような措置

チェック項目⑤
組換えDNA技術
の利用

チェック項目⑥
放射線照射の利用

(別添)

ほ場地図

氏名: _____



以下は、現地確認実施時に記載すること。

現地確認チェックリスト

【抽出検査の対象外のため、以下を省略する。】

- ① 現地確認を実施する者が記入すること。
- ② がある項目については、該当するものにに又はを記入すること。
- ③ 農場管理シートに記載された内容を確認し、本シートにその結果を記載すること。
- ④ 農場管理シートの「2 誓約」のに又はが記入されていることを確認した上で、現地確認を実施すること。

チェック項目①【農場管理シート1(2)、(3)]を確認

多年生の植物から収穫される農産物にあつてはその最初の収穫前3年以上、それ以外の農産物にあつては播種又は植付け前2年以上、使用禁止資材を使用していないか。

- 使用禁止資材を使用していない
- 使用禁止資材を使用している

「使用している」場合は右の質問へ

- 使用禁止資材を使用している場合、理由を選択すること。
- 都道府県より発生予察事業における警報が発令されたため
- その他()

チェック項目②【農場管理シート1(4)]を確認

有害動植物の防除を適切に実施しているか。

- 実施している
- 実施していない

「実施している」場合は右の質問へ

- 実施している場合、該当する技術名を選択すること。
- 耕種的防除(適地適作の作物や品種の選定、健全種苗の利用、耕起・中耕、被覆植物の利用等)
- 物理的防除(種子の比重選、光線の遮断、誘蛾灯・防蛾灯の利用、防虫用ネット・粘着トラップの利用、人力又は機械的な除草等)
- 生物的防除(拮抗微生物の利用、捕食性及び寄生性天敵の利用等)

チェック項目③【農場管理シート1(5)]を確認

使用禁止資材を使用しない等、有機栽培由来の種子、苗等を使用しているか。

- 使用している
- 使用していない

「使用していない」場合は右の質問へ

- 使用していない場合、該当する理由を選択すること。
- 有機種苗の販売がない又は価格が著しく高いため
- 品種の維持更新のため

チェック項目④【農場管理シート(6)]を確認

周辺から使用禁止資材が飛来し又は流入しないように必要な措置を講じているか。

- 講じている
- 講じていない

チェック項目⑤【農場管理シート(7)]を確認

組換えDNA技術を利用しているか。

- 利用していない
- 利用している

チェック項目⑥【農場管理シート(8)]を確認

放射線照射を行っているか。

- 行っていない
- 行っている

自由記載欄(取組が適切に実施されているかどうかを判断できない場合、該当項目及びその理由を記載すること。)

- 上記記載事項に相違ありません。
日付: 年 月 日
現地確認を受けた農業者:

- 上記記載事項に相違ありません。
日付: 年 月 日
現地確認を実施した者: